

〔拾芥抄中末本朝國郡〕武藏國大廿四郡久良都筑多麻橋樹荏原豊島足立新原座
 入間高麗比企横見埼玉大里男衾幡羅榛澤那珂兒玉東海大縣那
 珂重出那珂賀美秩父

〔曾我物語三〕はたけやましげたゝこひゆるさるゝ事

こゝにむさしの國の住人はたけ山のしやうじ二郎しげたゝ略申されけるは、いとうがまごどもを、はまにてきられ候なる、いまだおさなう候へば、せいじんのほど、しげたゝに御あつげ候へかし略。○中 きみのおほせには、かれらがせんそのふちう、みなくぞんじの事、なにとてかほどの給ふ、此事かなへぬおこたりに、むさしのぐに二十四ぐんをたてまつらんと、おほせくだされしぞ、まことにかたじげなくはおぼへける、

〔江亭記〕寄題江戸城静勝軒詩序

釋蕭庵龍統

武州江戸城者、太田左金吾道灌公所肇築也、自關以東、與公差肩者鮮矣、固一世之雄也、威愛相兼、風流籍甚、比來騷亂、以來欽承王命者、八州内才三州、三州之安危、係于武之二州、武之安危、係于公之一城、可謂二十四郡唯一人略。○下

〔江戸紀聞一〕江戸城

今按に、武藏國は、初めにものすることく、古へ二十二郡也、この記は拾芥抄などによりてかきしにや、拾芥抄諸國郡數のうち、に武藏國二十四郡とのせたり、山岡明阿云、和名抄には二十一郡とせるを、此書に二十四郡として、兒玉郡の次に、東海郡大縣郡ありて、又下に那珂郡あり、されば那珂郡は上下二ツわりて、二十四郡とする事、その故をしらずと、又按、曾我物語にも、武藏國二十四郡とせり、その據をしらず、

〔明治十三年〕東京地學協會報告〕國郡沿革考第二回

塚本明毅